

市長とのかがやきライフトーク

と き：平成 28 年 7 月 29 日（金） 9：30～10：30

ところ：大垣市総合福祉会館 3 階会議室

団 体：大垣市ボランティア連絡協議会

【ボラ連会長】

ボラ連は昨年設立 10 周年を迎え、岐阜経済大学のボランティア・ラーニングセンターの学生の皆さんと協働の学習会を進めることができました。若い人たちの考えに感銘した部分も多々あり、今後のボラ連の活動に生かしていきたいです。



私は広報おおがきの「市長のかがやきメール」を楽しみにしています。7 月 15 日号には、大垣出身の大今良時さん原作の漫画が映画化

されるとの記事がありました。ボラ連の皆さんには映画の PR を是非していただきたいと思ひますし、ボラ連のネットワークでも発信していきたいと思ひます。

先日の相模原市で起きた事件は、とても日本で起きたとは思えないような悲惨な事件で、ボランティアに関わる人たちも本当に辛かったと思ひます。そうした日々の活動で感じたような想いを皆さんに情報を発信していきたいと思ひます。

～ ボラ連の紹介・DVD（3 分）～

【市長】

幅広い活動をされていると感じました。特に健康づくりの印象を強く受けました。ただ長寿というのではなく、健康で長生きできるようにしていかなければならないと思ひます。元気で長生きするための活動をし、ボランティア活動されている皆さん自身も元気に長生きをして活動していただきたいです。

【災害救援部副部長】

大垣市の総合防災訓練には 10 年以上前からずっと参加しています。大きな災害が起こるとインフラが真っ先にだめになります。その時に我々の力が発揮できればとボランテ

ィアを始めました。

【楽学部会・要約筆記サークル水ふうせん】

手話のできない難聴者のための情報保障を行っています。

【自立支援部会副会長】

団体としては地域の福祉を支える会に参加しており、おもに認知症について理解を得る活動や対応についての活動をしています。



【自立支援部会長】

ピンピン元気で医者いらずをモットーに医療費節減、若いうちに筋力をつけて健康寿命を延ばすことを目的に活動しています。

【地域づくり部会・NPO法人まち創り】

活動としては、水門川クリーン作戦などの清掃活動や、かがやきライフのイベント開催運営をしています。

【地域づくり部会】

地域づくり部会は、歴史文化の継承や環境美化の保全、減災、レクリエーション、子育てなどの各分野で地域貢献とか、まち創り、地域活性化をテーマとした13団体が所属しています。例えば東日本大震災の被災地の仮設住宅の方に、毎月30枚ずつのハガキを送っている団体とか、毎月第1、3日曜日に国道21号線を通る堤防のゴミの清掃活動や、養老鉄道の無人駅の清掃活動、介護施設に訪問して車椅子の点検や修理をしている団体もあります。

人材育成の養成講座や、地域ニーズに沿った活動の在り方を学習し、特に災害発生時の活動の連携とか協力を団体としてどのようなことができるか、勉強をしながら研修を含め進めていくことをテーマに活動している部会です。

【自立支援部会】

文字通りそれぞれの団体が自立してもらえるように支援をしています。13団体所属しており、同じ障がい、病気や悩みを抱える方やその方々の家族も含め集まった団体です。そのような方々に寄り添い話を伺い、ゆっくり休んでもらい、元気を出していただけるように対応し、サポートしている団体です。今後は、ボランティアに関心ある方への啓

発活動も広げたいです。

【施設支援部】

平成 17 年 10 月に発足し、現在 14 団体が所属しています。介護施設を訪問し、音楽演奏、民謡や詩吟、レクダンス等の活動をしています。訪問の際は、奉仕や清掃活動も行っています。市内には数多くの介護施設がありますが、ボラセンにはたくさんの依頼があり、個々の団体が要請に応じようと頑張っています。今後もボランティア精神を忘れず、出会いを大切に活動していきたいと思ひます。また、ボランティアを始めたいと思ひている人が気軽に参加できるように仲間づくりに努めたいです。

【楽学部会】

楽学部会は 9 団体が所属していますが、それぞれ技術が必要となる場合が多く、楽しく学び技術を習得してボランティアをしています。今年是人形劇の「みつばち」が、緑綬褒章を受けました。おもちゃ病院は、クリーンセンターの協力もあって、使えるおもちゃ部品を提供してもらい修理しています。



大垣に登録している手話団体が 2 つあり、手話によりさまざまな場面でコミュニケーションの仲介をしています。文字情報（点字）、音情報でコミュニケーションの仲介をする団体が 5 つあります。今年の 4 月から障害者差別解消法が施行されました。施行に向けて各々の団体に技術向上に努力していきたいと思ひています。

会としては、大規模災害が起きた時に、必要な情報が届きにくい障がい者や高齢者、子どもたちがいます。引き続き障がいのサポートにうまく対応できるように、仲間と手を取り合っで活動していきたいと思ひます。

【市長】

手話のできない方は、要約筆記ですか？

【楽学部会】

そうですね、中途失聴者が途中から手話を学ぶのは大変で、手書きや行事などの字幕で情報を提供しています。

【市長】

スマホとかは使わないのですか？

【楽学部会】

使うことがあります。スマホで音声で文字化されるのがありますが、時間制限があったり、上手く電波が入らなるとなかなか情報が提供できません。今後は改善されていくと思います。



【子育て支援部会】

大垣市が目指している「子育て日本一のまちづくり」を受け、大垣市ボランティア協会を通し、子どもたちが健やかに心豊かに育ち、親が子育てに喜びを感じる気持ちに寄り添うボランティア活動をしています。平成17年10月6日に設立し、現在6団体が加盟し、定例会が6回、視察研修を1回しています。部会を通して

所属団体と情報交換をしながら、ボランティア活動をしていきたいと思っています。

【災害救援部会】

荒崎地区で水害が発生した時に、外部から多数のボランティアの受け入れを体験し、災害ボランティアが重要だとわかりました。平成19年度にボラ連に災害救援部会を設立しました。災害ボランティアの講座を受けたメンバーが集まり、地域を災害から守るために学んだことを市民活動として何かできないかと考えたことが始まりです。東日本大震災の災害地に2年連続で、また上石津の土砂災害のボランティア活動に参加しました。

これまでの活動としては、平成25、26年度と救命講習会を開催、平成27年度は非常食づくりの体験を行い、現在加盟している団体は5団体です。支援ネットワークや防災支援ネットワークは、かがやき出前講座において活躍されており、災害に関する講座も含めいろいろな講座があるので利用してほしいと思っています。

【市長】

いろいろな活動をしていただき、ありがとうございます。年配の方や地域で退職されて自宅にいる方が多いように感じるので、そういった人たちにボランティア活動をしてもらえるといいと思います。脳も体も活性化して元気で長生きしていただくことが大切ですし、そういった社会をつくっていききたいと思っています。また、振り込め詐欺の被害や高齢者を狙った犯罪も増えており、災害の心配もあります。いろんな事態に臨機応変に

対応できるように行政も考えていかなければならないと感じています。

【災害救援部会】

上石津の土砂災害時、思ったよりも参加者が少ないように感じました。市から社協へ連絡がきたと思いますが、連絡網がわかりやすかったら各団体の参加も多かったのではないかと思います。また、講習会も繰り返し行うことが大事だと思います。

【市長】

荒崎の水害や時の土砂災害、土砂崩れは逃げ遅れると命を失い、怖さを感じます。早めに避難勧告することが大切になります。まずは消防団や自治会が先に動きますが、その後、復旧復興の際に地域において防災支援できるような体制を充実していかなければと思います。災害は想定外で起こりうるので、そういった学習が必要かと感じます。

【地域づくり部会】

私どもは市民活動支援センターを運営させてもらっていますが、活動拠点があると互いの情報交換や交流、個々の団体活動がより増強、増幅でき、協力し合うことができます。

しかし、高齢化による団体の人材不足や、担い手の減少など、どこの団体でも課題になっています。地域づくり部会でも、何年後かには半数の団体はなくなっているだろうと思われま

す。その中で、大垣まつり、水門川クリーン作戦に何百人と来ていただけるので、ボランティア意識は非常に高くなっていると思います。もう一つ、生涯学習系のボランティア市民団体も非常に増えており、その点においては、いわゆるかがやきライフはうまくいっていると感じます。一方で、シニアの方の活動が望まれているのに、なかなか参加してもらえなかったり、若い方からは、PTAや自治会の必要性がないという意見がでてきたりしています。それらを考えますと、人のために地域のためにとの意識が、皆さんの中に根付いていないというのは残念に思います。人の善意だけではできないところもあります。それに対する方策も色々あると思いますが、これからのボランティア活動を考えるなかで、防災、災害は身近な課題として考えられていると思います。



【市長】

生涯学習のボランティアが増えていると聞き、心強く感じました。活動拠点を中心にして、色々活動してもらえるとありがたいと思います。一方で時代の流れもあってか、

自治会の必要性が弱くなっており、東京などは地域のつながりが少ない分、孤独死などの課題も出てきています。自治会は行政の組織ではなくて地域の皆さんの交流のつながりです。災害があった場合に、行政がそれぞれの状況に応じてすべて対応できるかと言え、地域の皆さんでなければ個々の状況を把握できないことがあります。迅速な対応という点から考えれば、地域のつながりを大切にしてほしいと思います。

【ボラ連会長】

自治体、地区社協の行事にボラ連のグループに声が掛かるのが少ない気がします。市との協働として、出前講座を通してそれぞれの部会の特徴を知ってもらい、地域に出向いて行きたいと思います。私たちはいろいろな施設を訪問していますが、同じ施設から声が掛かった際は必ず内容を変えています。そういったことはボランティアをするうえで大切だと考えています。

ボラ連としての今後に関しては、10月の末に福祉ボランティアフェスティバルが2日間の予定であります。テーマは「たくさん笑顔でつながるフェスティバル」で、企画の中で1つの部会が1時間発表する場をいただきました。皆さんに活動を紹介していきたいです。



【市長】

出前講座でも皆さんの積み重ねられたことを市民の皆さんにPRして、ボランティア会員数も増えるとよいと思います。これからは少子高齢化社会ですので、皆さんも市民の方々も元気で住みやすいまちづくりをぜひ進めていきたいと思えます。子育て支援などやらなければならない大きな課題もたくさんあります。行政だけではとてもできる話ではなく、皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願ひします。ありがとうございました。

ろしくお願ひします。ありがとうございました。